

Title	グループワーク : 課題の解決策のアイデアを考える
Author(s)	石川, 朝子
Citation	GLCOLブックレット. 2012, 8, p. 88-88
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/48400">https://hdl.handle.net/11094/48400</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# III

グループワーク

## 課題の解決策の アイデアを考える

## グループワーク 課題の解決策のアイデアを考える

石川朝子 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程

【ワーク2-1】(グループ別ワーク)では、「課題の解決策のアイデアを考える」というタイトルで、以下に示した各グループの課題について、それぞれの課題遂行のためのアイデアを出し、どの機関や団体などと協働し、実行することができるかについて考えた。

- Aグループ: 少人数在籍校で子どもをサポートするには?
- Bグループ: 行政(教育委員会)と協働するには?
- Cグループ: 子どもの自己発見をサポートするには?
- Dグループ: 保護者と連携するには?
- Eグループ: 子どもたちが地域へ発信するには?

話し合いによって、最初に提示されたテーマが変わったというグループもあった。その内容は、この後の各グループの報告をご覧ください。

各グループにファシリテーターとして一人ずつ企画運営者が入り、中心となってグループワークを進めることになった。ファシリテーターはタイムキーパーも兼ねている。グループによっては、進行の度合いが異なるので、ファシリテーターが様子を見ながら出来るところまで進むこととした。時間の制約のあるなかで、無理をして先を急ぎ結論を出すことよりも、日頃考えていることや各参加者の経験を話し合い、深める場としてグループワークを位置づけることになった。

ファシリテーター側で考えていたタイムス

ケジュールと話し合う内容は、以下の通りである(詳しいタイムスケジュールについては、p.128表を参照のこと)。

### 1. 自己紹介

初めて会う参加者がお互いの事を知れるように、自己紹介では「名前」「トランスナショナルな教育と関わった場所」「好きな国・地域(その理由)」を附箋に書き出し、共有した。

### 2. 「具体案を出し合おう」

次に、各グループに用意されたテーマについて、①そのテーマを遂行するためには何が必要か全員でアイデアを出し合った。まずは、個人で考え付くものをたくさん書きだしていった。その後、全員で共有した。②出てきたアイデアを「短期」「中期」「長期」に分ける。それぞれの期間の長さは各グループで考えた。

### 3. 「どこと協働できるか考えよう」

それぞれのアイデアについて協働できる機関や団体を考え、模造紙に書き出し、それぞれのアイデアを協働できる機関に○をつけていく。

### 4. 「文章化してみよう」

話し合いをしたことを文字で残しておくことは非常に重要なことである。議論が盛り上がった結果、ほとんどのグループはこの作業を行おうとする前に時間切れとなった。